ISSN 2186-554X

山梨県衛生環境研究所年報

平成 26 年　第 58 号

Annual Report of the Yamanashi Institute for Public Health and Environment

No.58,　2014

山梨県衛生環境研究所

は　じ　め　に

山梨県衛生環境研究所は、県民の生命と健康を守るため、科学的・技術的中核機関として、感染症や食中毒の原因究明やまん延防止、食品及び医薬品の安全性の確保、更には大気、水質及び土壌の汚染防止等の環境保全に関わる試験検査、調査研究に取り組んでいます。

さて、２６年度を振り返って見ますと、世界的には、西アフリカを中心としたエボラ出血熱の大規模なアウトブレイク、また中東呼吸器症候群(MERS)等新たな感染症の流行や鳥インフルエンザのヒト-ヒトへの持続感染も懸念される等、予断を許さない状況が続く中、国内では、約７０年ぶりとなるデング熱の国内感染での流行が見られ、県内でも患者の発生がありました。

また、ノロウイルスや腸管出血性大腸菌を原因とする食中毒事例の中には大規模化、広域化、重症化するものも見られ、早期の原因究明や更なる未然防止対策等が課題とされているところです。

こうした状況の中、保健所、医療機関、関係機関と連携し情報共有を図り健康危機を最小限に抑えられるよう迅速な対応に努めました。

一方、環境分野では、健康への影響が懸念される PM2.5 の更なる調査分析をはじめ放射線量や大気汚染物質の常時監視等について関係機関と連携し県民へ情報提供を行いました。

今後も引き続き、試験研究機関として、健康危機や環境課題に迅速かつ的確な対応ができるよう、人材育成等専門性技術の維持向上に努めるとともに、関係機関との情報の共有化を更に進め機能強化を図って参りますので、尚一層のご支援よろしくお願い申し上げます。

ここに、平成２６年度の調査・研究の成果を「山梨県衛生環境研究所年報第５８号」としてとりまとめました。

どうぞ、ご高覧の上、ご意見・ご指導をいただければ幸いです。

平成２７年８月　　山梨県衛生環境研究所

所長　仲　山　広　江

目　　次

Ⅰ　組織と沿革 ………………………………… 1

Ⅱ　業 務 報 告
企画情報科、総務スタッフ ………………………………… 2
生活科学部 ………………………………… 7
微生物部 ………………………………… 9
環境科学部 ………………………………… 12

Ⅲ　資　料 ………………………………… 14

Ⅳ　論文抄録及び学会発表等 ………………………………… 29

Ⅴ　研 究 報 告 ………………………………… 31
山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査 …………… 32
山梨県内における水道水中の自然放射性核種と水質性状 ………… 38
農産物中の残留農薬一斉分析法の妥当生評価結果とその課題について ……… 42
山梨県内産食品中の放射性物質影響調査（2011～2014） ………… 56
寄生虫・衛生動物の依頼検査の概要（2005～2014） ………… 60
甲府地区の花粉（スギ・ヒノキ）の飛散量の予測式の検討 ………… 65
山梨県内の腸管出血性大腸菌の検出状況（2014） ………… 67
ローストビーフ等のランチブッフェを原因とする黄色ブドウ球菌による食中毒事例… 71
山梨県におけるインフルエンザの検出状況(2014～2015) ………… 74
野外実験池における花菖蒲を用いた水質浄化の基礎実験Ⅱ
― 簡易浮島での成長量 ― ………… 77
山梨県における葉状地衣類の分布及び生息環境調査 ………… 82
山梨県内河川水中における重金属の形態分析について ………… 88
山梨県における酸性降下物の降下量について（2010～2014） ………… 93